

# P.M.C かわら版

## 第6回PMC総会開催!

12月10日横浜地本会議室において、第6回PMC総会を開催しました。靖国神社・遊就館、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の現地踏査報告を行い、意見交換を行いました。

### 【意見交換にて】

- 「日本は神の国」だとかムードに流されることが危険。ムードに流されないことが戦争を避けることになる。
- 宗教を利用して人の死を美化する怖さを感じる。皆が動かないと世界は平和にならない。
- 遊就館をつくった目的を考えることが大事。戦争美化、戦意を高揚するためではと感じる。
- 自分と考えが違ふと避けてきた。嫌なことや自分と違うものにも向かってみるのは必要。
- 戦争をカッコよく見せると子どもたちがどうなるか心配。踏査の予習や振り返りは必要。
- 戦争で亡くなった人たちは、名を残すために生きていたわけではないはず。千鳥ヶ淵戦没者墓苑は寂しいところだった。名も何も残らなかった人たちも何のために生きていたのか考えてしまう。戦争は失敗だ。同じことを繰り返してはならない。
- 会社が戦争に加担するとなったとき、組合未加入者はNoと言えるのだろうか。
- 国家が一般人を見捨てる今の社会。国家と会社の姿勢がリンクする。
- これから今日学んだことをどう広げていくかが重要だ。



### 総会アピール

横浜地本PMCは12月10日、横浜地本会議室において第6回総会を開催し、平和を希求する多くの仲間の結集により、これからも平和の取り組みを実践する決意を新たにしました。今もなお世界的に新型コロナウイルスが流行し、日常生活だけでなく、平和活動で現地において踏査したり、集まって学習をするような場が作りづらい状況が続いています。しかし私たちは、自らの足で現地へ行き、体験者から話を聞き、発信して仲間と議論するという場をコロナ禍においてどうすれば実現できるか考え、今年は総会に先立って、靖国神社と千鳥ヶ淵戦没者墓苑の現地学習行動を行い、みんなで活動する形を構想してきました。

この一年を振り返ると、さまざまに模索をしながら進めてきました。地本事務所の移転に伴うPMC文庫の移設では、幹事やOBのご協力により、これまで積み重ねてきた平和活動で集められた貴重な書籍や資料を、新事務所ですべてだれでも読むことができるようにしてきました。平和活動に関する情報集めと相互発信の場については、幹事が対面が集まるのが難しい中でも、各々が気づいたニュース記事を共有し合い、問題意識を高める行動を創り出してきました。

メンバーの発信で気付かされた国内外の情勢も特徴的な動きがいくつかありました。アフガニスタンでは米軍が撤退し、その後はタリバンが復権しつつあります。アメリカの大義名分から始まった戦争でしたが、武力で固められた傀儡政権が崩れ行く姿から学ばされるものも多くあります。日本においては沖縄・辺野古の埋め立てが継続されており、県民を中心として根強く反対の声が上げ続けられています。原発についても東日本大震災以降10基が再稼働してしまいました。今年は、経年40年を超える美浜原発3号機も再稼働し、基準はクリアしているとはいえ、想定外が排除しきれない老朽原発を稼働させる危険性についても考えていく必要があります。そして、岸田政権が誕生しました。第49回衆議院選挙では改憲勢力が3分の2を大きく超える状況になり、いつでも改憲の発議ができ国民投票が迫っています。岸田首相は戦後70年の安倍談話を踏まえた積極的平和主義のスタンスを取っており、改憲への意欲も示しています。また靖国神社へ供物を奉納しており、現地踏査を行った私たちはそれがどういう意味なのか、改憲の狙いを見定め仲間に広めていかなければなりません。

私たちはこれからも、コロナ禍の平和行動を創造的に行い、考えを同じくする市民団体とも手を取り合いながら視野と見識を広めていきます。社会情勢をあらゆる断面で捉えながら、会社や国の狙いとは何か、そこで犠牲になる立場の人間はいないのか、ヒューマンズある観点で本質を見抜いていきます。政治情勢にも関心を持ち、私たちの生活の根幹を揺るがす憲法改悪を阻止すべく、来る参議院議員選挙や迫る国民投票に向けて学んだことや現状への危機感を仲間へ伝えていきたいと思います。自治体の首長や参院選が平和にどのように繋がるのかを身近な人と話し合っていくことが大切になると言えます。

職場から、家族から、地域から、連帯する仲間を増やしていきましょう!

2021年12月10日  
東日本旅客鉄道労働組合  
横浜地本PMC第6回総会

# コロナ禍においても新たなスタイルで今後も活動をつくり出します!